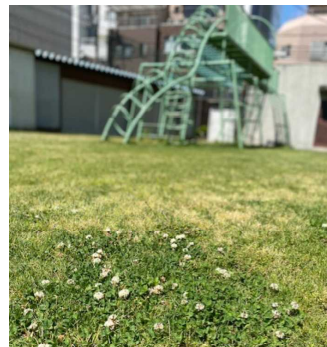


人はなぜ学ぶのか 4

～なぜ勉強・学習しないといけないのか～

敷津小学校 原 雅史



「勉強」と「学習・学び」の違いをもうひとつ挙げておきます。元東京大学の教授佐藤学先生は、「勉強」と「学び」との違いは、「出会いと対話」の有無にあると考えておられます。

つまり「勉強」が何ものとも会わず、何ものとも対話しないで行われるのに対して、「学び」はモノや人やことがらと出会い対話する営みであり、他人の思考や感情、そして自分自身と出会い対話する営みであるとおっしゃられています。

先生に教えてもらい、教科書の知識を習得する「勉強」は、ギリシャという国の昔の哲学者プラトンがいた「洞窟の神話」にもたとえることもできます。

「洞窟の囚人」が洞窟の壁に映った影を、ほんもの自分と見まちがたように、教科書と黒板に映し出された知識を習得しているときは、現実の世界の知識を学んでいるのではなく、教科書と黒板に映し出された知識の影を、情報として身につけているに過ぎないとまで佐藤先生は述べておられます。

この「勉強」という壁を「学びに」変えるには、道具や素材や人によってつくられた「活動的な遊び」を教室に実現する必要があると。「出会いと対話」がなければ学びはうまれないと…。

このように考えますと、今コロナウイルスの関係で学校がお休みになっていますが、うちで「勉強」というのは難しいかもしれませんが、「出会いと対話」のある「学び」はできるのではないのでしょうか。

たとえば、ハンバーガーを食べたとき、ゲームで街をつくったとき、人気マンガをよんだときなどなど、わたしたちには、毎日様々な出会いがあります。そのときに、たとえばこのハンバーガーひとつ110円だけど、パンが30円ハンバーグは80円ぐらいかなあ、でもそうすると、ピクルスや紙の包み紙は0円…。あれ？おかしいな？ などなどをモノと対話して、自分自身と対話して、そして周りの人と対話すると、算数の学びになったり社会の学びになったりするのではないのでしょうか。

このように、考えますと、私たちのふだんの生活の中には学べるチャンスがたくさんありそうです。自分のこのころの持ち方ひとつで、学ぶ機会はたくさんあるのです。

そして実はもう一つ、皆さんが学びに向かいたくなるコツがあります。「よし、私もこれから様々なことを学んでみよう！」と「学びのヤル気スイッチ」のボタンはみんな持っているのですよ。

(続きはまた次回にお話します)